

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓 誠実・明朗

めざす学校像

- 1 生徒の夢が実現できる学校（生徒の希望する進路が実現できる学校づくり）
- 2 地域とともに歩む学校（地域から愛され信頼される学校づくり）
- 3 教職員の取組みが結実する学校（教職員が課題の共有化を図り、一丸となり課題解決に取り組むことで生徒が変容し、教職員が達成感を味わえる学校づくり）

育てたい生徒像 “3つのC”

- 創造的な人間（Creation） 学力の伸長を図り、個性豊かで創造的な人間
- 信頼される人間（Confidence） 高い知性と豊かな情操、公正な判断力を身につけ、自他を尊敬し、責任感のある人間
- チャレンジする人間（Challenge） 困難にくじけない強健な身体を育成し、向上心旺盛で何事にもチャレンジする人間

2 中期的目標

1 教育力の向上

(1) 確かな学力の育成

- ア 基礎学力を身につけるための山田B T（ベーシック・タイム 10 分間の朝学習）を継続発展させる。
- イ 授業での取組み（最初の 5～10 分に小テストを実施等）及び山田B T等により、自主的学習の基盤である家庭学習の時間を増加させる。
- ウ 英文法基礎及び英文法発展の授業において習熟度別授業を実施する。
- エ 国語表現等において少人数展開授業を実施する。

(2) 授業力の向上

授業充実P Tを核に、本校のめざす授業像「興味関心をかきたてられる授業、わかる授業」を実践する。校内のICT環境を整備したことにより、ICTを活用した授業研究を推進し、興味関心を高め知識の習得を効率化する。また、アクティブ・ラーニングなど生徒主体の授業を充実させる。そのことで生徒の学習意欲を喚起し、学力（知識・技能、思考、表現）の向上を図る。

- ア ICTを活用した授業研究を推進する。
- ※ICTを活用した授業実践を各教科で年間1回以上行う。
- ※授業アンケートにおける「興味関心、知識技能が身についた」の平均肯定割合 80%以上の水準を保つ。

イ アクティブ・ラーニングなど生徒主体の授業研究を推進する。

- ※アクティブ・ラーニングなど生徒主体の授業実践を各教科で年間1回以上行う。
- ※授業アンケートにおける「思考力・表現力が身についた」の平均肯定割合 70%以上をめざす。

ウ 「全員による全員の授業観察」を目標にし、研究授業・公開授業を推進する。

※他の教諭の授業観察を行った教諭の割合を 100%。研究授業・公開授業の実施回数を年間 10 回以上とする。

エ 授業力向上の取組み及びB T学習（英語と国語の朝の 10 分間学習）とも連動させて、漢検・英検における 2 級・準 2 級の合格者を増加させる。

※英検（2 級 10 名、準 2 級 100 名）及び漢検（2 級 30 名、準 2 級 100 名）の合格者を増加させる。

オ 授業力向上の取組み及び3年間を見通したキャリア教育により希望進路実現率を向上させる。

※中期完成年度には国公立大学合格者数を 30 名に、関関同立大合格者数を 150 名以上にする。

(3) 3年間を見通したキャリア教育

- ア 選抜性の高い大学進学を中心とする生徒・保護者の進路希望に対応する。
- イ 補習・講習（課業日の早朝や放課後、長期休業）を組織的・計画的に実施する。
- ※学力生活実態調査を各学年、年 2 回実施し、その分析会を行う。
- ※全国レベルで生徒の学力を診断できる実力考査を各学年、年 1 回以上実施する。
- ウ 卒業生の実態把握を進め、同窓会と連携したキャリア教育を実施する。
- ※卒業生によるキャリア講演会を実施する。
- エ 1 年次の秋の校外学習を進路学習と位置づけ、学習への意欲を喚起する場とする。

(4) グローバル人材の育成

ア 語学研修を引き続き実施するとともに、姉妹校である Bentleigh secondary college との交流を深め英語を用いたコミュニケーション力を育成する。

2 豊かでたくましい人間性のはぐくみ

(1) 部活動や特別活動を通じ、生徒の「自尊感情」を高め、他者の役に立っているという有用感、困難を乗り越えることのできる力を育成する。

ア 部活動加入率を 90%以上とし、それを継続発展させる。（平成 28 年度 90.8%）

(2) 生徒会活動の活性化

ア 体育祭・文化祭の活性化を図る。

(3) 生徒指導の強化

- ア 遅刻指導を継続強化する。
- イ 服装・頭髪指導を継続強化する。
- ウ 交通安全指導を継続強化する。

(4) 校内美化の推進

ア 生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。

(5) 人権尊重の教育の推進

ア 生徒が自他の権利を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという基本的姿勢の形成をめざす。

(6) 安全で安心な学びの場づくり

ア いじめの防止・対策：いじめ防止対策推進法に則り、学校としていじめを許さない体制をとる。問題事象が発生した時は、ケース会議により早急に対策を練り実行する。

イ 教育相談機能の充実：定期的にアンケート調査を実施し、生徒の状況把握に努めるとともに、「高校生活支援カード」を利用した生徒支援の充実を図る。

(7) 始業式・終業式を自己を見つめ、学校生活への意欲を喚起する場、生徒を褒め称える場とする。

ア 部活動の成果等を伝達表彰するとともに校歌を全員で斉唱する。（毎昼休みに校歌を流す）

3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり

(1) 組織力向上：常に学校組織の見直しを図り、組織の活性化を推進する。

ア 学年主任会議を設け、各学年の連携、引継ぎがスムーズにいくようにする。

※校外学習を、入学から卒業までの3年間を見通し系統的・計画的に実施する。

1年(2回)は春、仲間・クラスづくり、秋は大学見学の進路学習、2年春は修学旅行の事前学習等。3年春は最高学年として学年・クラスの団結づくり等。

イ 各分掌と各学年のバランスを図る。

(2) 保護者・地域との連携

ア 小学生対象の科学入門講座、中学生対象の「楽しいスポーツ芸術講座」、山高杯、山高カップなどを継続発展させる。

イ 地域の行事へ積極的に参加する。地域連携を深める。

(3) 教育活動の情報発信

ア 教育活動の情報発信について、総務部を中心に全校的に取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>今年度は「山田 B T 等の取組み」及び「授業改善の取組み」の2点を柱に学校経営を行った。</p> <p>1 山田 B T 等の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 山田 B T の取組み及び全教科の授業で最初の 5～10 分に小テスト（前時学習した内容）することを共通理解し、生徒を家庭学習に向かわせた結果、山田 B T アンケートにおいて「平日ほとんど学習しない」生徒の割合は、平成 27 年度 53.2%、平成 28 年度 8.6%、平成 29 年度 6.8%と、この3年間でほとんどの生徒が家庭学習に取り組むようになった。 学校教育自己診断(教員)「家庭学習を増やす取り組みを行っている」は平成 28 年度 56.9%→平成 29 年度 71.4% (14.6%向上) であった。 学校教育自己診断「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」(生徒)は平成 28 年度 82.1%→平成 29 年度 87.4% (5.3%向上)。生徒と同じ質問に対する保護者の意識は平成 28 年度 78.8%→平成 29 年度 81.7% (2.9%向上) であった。 これらのデータから教員が生徒を家庭学習に向かわせるよう指導し、生徒もその指導に従い、山田 B T や次の授業の小テストに備え、前時の復習をする家庭学習の習慣が身についていると判断できた。この山田 B T の取組みが進路実績向上の大きな要因であると考えられる。 <p>2 授業改善の取組み</p> <p>(1) 「ICTを活用した授業」の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度、学校経営推進費の取得により全 HR30 教室にプロジェクターを設置した。今年度は ICT を活用した授業研究を各教科で実践することができた。また、各教科 ICT 教材の共有化を進め、教材を更に発展させることができた。 学校教育自己診断(教員)「ICT機器を授業に活用している」における平成 26～29 年度の肯定回答率の推移は 59.3%→87.5%→90.0%→87.8%、同質問の「とてもそう思う」は平成 28 年度 42.0%→平成 29 年度 46.3% (4.3%向上)。約半数の教員が ICT を積極的に活用していることが読み取れた。 学校教育自己診断(生徒)「授業でコンピュータやプロジェクターを活用している」における平成 26～29 年度の肯定回答率の推移は 60.5%→84.5%→87.3%→85.7%という結果であった。 以上のデータから教員と生徒の意識は合致しており、ICTの活用は 85～90%を維持し、活用が定着していることが読み取れた。特に、教員の「とてもそう思う」の推移から ICT の活用が高いレベルで進み授業改善が図られていることが認識できた。 さらに授業アンケートにおける「知識・技能が身に付いた」の平均肯定割合は 80.3%となり、8割を突破することができた。 <p>(2) 「生徒主体の授業」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> アクティブ・ラーニング等の生徒主体の授業を各教科で実践することができた。特に ICT 機器を活用することで板書の時間を削減し、その削減してできた時間を活用して、班での協議・発表、教え合い、学び合い等の生徒主体の授業ができてきている。 学校教育自己診断(教員)「授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」は平成 28 年度 65.3%→平成 29 年度 80.0% (14.7%向上)。「グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている」は平成 28 年度 72.5%→平成 29 年度 78.0% (5.5%向上) という結果であった。 一方、授業アンケートで今年度新たに設けた項目「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」は 7月 74.2%、12月 73.0%であった。また授業アンケート「思考力・表現力が身に付いた」の平均肯定割合は 7月 68.7%、12月 76.5%という結果であった。 上記から、生徒を主体とした授業の推進について、教員の意識は確実に上がっている。現中 3 生から実施される大学入学共通テストでは「思考力・判断力・表現力」を重視し記述式問題が導入される。今後、生徒の学力(思考力・判断力・表現力)の向上に向けて一層取組みを推進する。 <p>3 今年度のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(生徒)「学校へ行くのが楽しい」は平成 28 年度 82.1%→平成 29 年度 83.4% (1.3%向上)。「山田高校に入学してよかった」は平成 28 年度 85.9%→平成 29 年度 87.7% (1.8%向上) であった。 学校教育自己診断(保護者)「学校へ行くのを楽しみにしている」は平成 28 年度 87.1%→平成 29 年度 88.2% (1.1%向上)。「山田高校に入学させてよかった」は平成 28 年度 93.5%→平成 29 年度 95.0% (1.5%向上) であった。 上記により、生徒が本校で生き生き活動している様子を保護者が目の当たりにして、入学させてよかったと感じていることが読み取れた。 	<p>*実施日 第1回(6/23) 第2回(11/15) 第3回(1/30)</p> <p>*委員構成(敬称略)</p> <p>友谷知己(会長、大学教授)、笠井一司(地元中学校長)、赤繁信和(地元小学校長)、栗原喜幸(地元公民館館長)、瀬川 昇(P T A 会長)、西川滋夫(同窓会副会長)</p> <p>第1回(6/23)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業見学をして、グループで話し合うなど主体的で対話的な学習に取り組む、学びの質を高める努力をされていることを評価したい。 授業を見学して気になった点は、講義形式の授業で寝ている生徒がいること。せっかくよい授業をしてもらっていても、寝ていては学力も身に付かない。そういう生徒に対しては、起こすよう指導して欲しいという要望が出された。 体育祭で応援団のルール違反により、優勝団の再演が中止となったのは残念だったが、学校の対応としては適切だったのではないかと思う。 体育祭の開会式で、校歌が歌えていないように感じた。もっと大きな声で歌えるよう指導いただきたいという要望が出された。 山田高校出身だと話すと、いろんな人から「よい学校に行かれてたんですね」という返事が返ってくるので誇らしく思う。生徒達に母校を大事にするように指導して欲しいという要望が出された。 <p>第2回(11/15)</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業充実 P T は 10 年くらい前から活動していると聞いたが、生徒同士の学び合いやグループ学習など、取り組みの成果が授業に表れていると感じた。今後も授業改善に積極的に取り組んでもらいたいという要望が出された。 進学実績も着実に伸びている。海外との交流もさかんになっている。遅刻も減少している。先生方の努力が実を結んでおり、頼もしく感じる。今後もこれらの取り組みを継続して欲しいという要望が出された。 校外の登校指導を定期的実施してくださっているの、地域住民としても心強い。今後も続けて欲しいという要望が出された。 山田東中学校区地域教育協議会フェスティバルではダンス部と吹奏楽部が出演してくれた。地域障がい者の催しには社会活動部が協力してくれた。公民館の文化祭では書道部と美術部が出演してくれた。さすがは高校生と思わせる作品だった。高校生が関わってくれれば、小中学生はあんな高校生になりたいと思うようになるし、親もあんな高校に行かせたいと思う。今後も地域連携を発展させて欲しいという要望が出された。 <p>第3回(1/30)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習指導要領の「主体的、対話的で深い学び」について、小中学校では主体的、対話的は班活動等で行っているが、深い学びまでなかなかできていない。深い学びを実現するためには、例えば 50 字、80 字で文章を書かせる訓練が必要だと考える。それが学力(思考力・判断力・表現力)の向上に繋がる。今後の B T や授業の取組みの中で検討して欲しいという要望が出された。 学校教育自己診断(保護者)「山田高校に入学させてよかった」は今年度 95.0%という数値とお聞きした。これは、保護者が日々の生徒の様子を見て、学校生活が充実していると感じている証拠だと思う。今後も生徒たちのために指導をよろしく願いたい。 校則について、例えば服装指導では、生徒指導部と生徒会部が連携し、生徒の意見も取り入れ、指導方針を決められている。5月と10月を合服期間(夏服・冬服どちらでも可とし、単色のセーター・カーディガン・ベスト着用可)とされている。さらに生徒主体で、生徒会執行部・風紀委員が定期的に正門・下足室前に立ち、生徒たち自ら規律を守る仕組みを整えておられると聞いて感心した。校則の見直しについては、生徒会や P T A でも協議をされていると伺った。山田高校の校則は今のままで問題ない。生徒の意見も取り入れ、よく考えられている。このまま続けていただきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 教育力の向上	(1) 確かな学力の育成	イ・授業での取組み及び山田B T等により、自主的学習の基盤である家庭学習の時間を増加させる。 ・教科指導（英会話、公民演習、数学Ⅲ、保健、国語演習等）で図書館利用を行っており、授業での図書館利用を更に促進するとともに、生徒の読書意欲を喚起し、図書館の利用人数を増加させる。	イ・山田B Tアンケートにおいて「平日ほとんど学習しない」生徒の割合を5%以下にする。（平成28年度8.6%） ・年間の利用者数4000人以上をめざす。（平成28年度利用者数3706人）	イ・山田B Tの取組み及び全教科の授業で最初の5～10分に小テスト（前時学習した内容）することを共通理解し、生徒を家庭学習に向かわせた結果、山田B Tアンケートにおいて「平日ほとんど学習しない」生徒の割合は、平成27年度53.2%、平成28年度8.6%、平成29年度6.8%と、この3年間でほとんどの生徒が家庭学習に取り組むようになった。（○） ・学校教育自己診断（教員）「家庭学習を増やす取り組みを行っている」は平成28年度56.9%→平成29年度71.4%（14.5%向上）であった。 ・学校教育自己診断「生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」（生徒）は平成28年度82.1%→平成29年度87.4%（5.3%向上）。生徒と同じ質問に対する保護者の意識は平成28年度78.8%→平成29年度81.7%（2.9%向上）であった。 ・これらのデータから教員が生徒を家庭学習に向かわせるよう指導し、生徒もその指導に従い、山田B Tや次の授業の小テストに備え、前時の復習をする家庭学習の習慣が身につけていると判断できた。この山田B Tの取組みが進路実績向上の大きな要因であると考えられる。 ・教科指導（国語表現、数学Ⅱ、数学B、保健等）で図書館利用を行っており、図書館の利用延べ人数は4287人であった。（◎）
	(2) 授業力の向上	ア・ICTを活用した授業研究を推進する。 イ・アクティブ・ラーニングなど生徒主体の授業研究を推進する。	ア・ICTを活用した授業実践を各教科で年間1回以上行う。 ・授業アンケートにおける「興味関心、知識技能」の平均肯定割合80%以上の水準を保つ。（平成28年度82.8%） ・学校教育自己診断の（教職員）「ICT機器を授業に活用している」の肯定回答率（以下、同様）90%を確保する。（平成28年度90.0%） ・学校教育自己診断の（生徒）「授業でコンピュータやプロジェクターを活用している」90%をめざす。（平成28年度87.3%） イ・アクティブ・ラーニングなど生徒主体の授業実践を各教科で年間1回以上行う。 ・学校教育自己診断の（教職員）「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」70%をめざす。（平成28年度64.0%） ・学校教育自己診断の（生徒）「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」70%をめざす。（平成28年度65.4%） ・授業アンケートにおける「思考力・表現力が身についた」の平	ア・ICTを活用した授業研究を国語、社会、数学、理科、英語、保健体育、芸術科、家庭科、情報科で実施することができた。また、各教科でICT教材の共有化を進め、教材を更に発展させることができた。（◎） ・授業アンケートにおける「知識・技能が身に付いた」の平均肯定割合は80.3%であり、8割を突破することができた。（◎） ・学校教育自己診断（教職員）「ICT機器を授業に活用している」における平成26～29年度の肯定回答率の推移は59.3%→87.5%→90.0%→87.8%。今年度の対前年度比は2.2%減少したが、同質問の「とてもそう思う」は平成28年度42.0%→平成29年度46.3%（4.3%向上）であった。約半数の教員がICTを積極的に活用していることが読み取れた。（○） ・学校教育自己診断（生徒）「授業でコンピュータやプロジェクターを活用している」における平成26～29年度の肯定回答率の推移は60.5%→84.5%→87.3%→85.7%（対前年度比1.6%減少）という結果であった。（○） ・上記のことから教員と生徒の意識は合致しており、ICTの活用は85～90%を維持し、活用が定着していることが読み取れた。特に、教員の「とてもそう思う」の推移からICTの活用が高いレベルで進み授業改善が図られていることが認識できた。 イ・アクティブ・ラーニング等の生徒主体の授業を国語、社会、数学、理科、英語、保健体育、芸術科、家庭科、情報科で実践することができた。特にICT機器を活用することで板書の時間を削減し、その削減してできた時間を活用して、班での協議・発表、教え合い、学び合い等の生徒主体の授業ができてきている。（◎） ・学校教育自己診断（教員）「思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている」は平成28年度64.0%→平成29年度68.3%（4.3%向上）。また「グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている」は平成28年度72.5%→平成29年度78.0%（5.5%向上）。「授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」は平成28年度65.3%→平成29年度80.0%（14.7%向上）という結果であった。（○） ・学校教育自己診断（生徒）「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」は平成28年度65.4%→平成29年度62.4%（3.0%減少）という結果であった。一方、授業アンケートで今年度新たに設けた同項目「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」の平均肯定割合は7月74.2%、12月73.0%であった。（○） ・授業アンケートにおける「思考力・表現力が身についた」の平均肯定割合は7月68.7%、12月76.5%とい

府立山田高等学校

1 教育力の向上		<p>ウ・「全員による全員の授業観察」を目標にする。</p> <p>・研究授業・公開授業を推進する。</p> <p>エ・授業力向上の取組み及びB T学習（英語と国語の朝の10分間学習）とも連動させて、漢検・英検における2級・準2級の合格者を増加させる。</p> <p>オ・授業力向上の取組み及び3年間を見通したキャリア教育により希望進路実現率を向上させる。</p>	<p>均肯定割合70%以上をめざす。</p> <p>ウ・他の教諭の授業観察を行った教諭の割合100%とする。（平成28年度96.7%）</p> <p>・研究授業・公開授業を年間10回以上実施する。</p> <p>エ・英語検定2級の合格者数を10名（平成28年度17名）に、準2級の合格者を80名（平成28年度48名）にする。</p> <p>・漢字検定2級の合格者数を24名（平成28年度10名）に、準2級の合格者を75名（平成28年度29名）にする。</p> <p>オ・国公立大学合格者数を24名（平成28年度は京大、阪大等14名）に、関関同立大合格者数を150名以上（平成28年度168名）にする。</p>	<p>う結果であった。（◎）</p> <p>・上記の結果から、生徒を主体とした授業の取組みを進めるべく教員の意識は確実に上がっている。現中3生から実施される大学入学共通テストで「思考力・判断力・表現力」を重視し記述式問題が導入される。生徒の学力（思考力・判断力・表現力）の向上に向けて一層取組みを推進する。</p> <p>ウ・「全員による全員の授業観察」をスローガンに、他の教諭の授業観察を行った教諭の割合は98.3%であった。（○）</p> <p>・「ICTを活用した授業・生徒主体の授業」をテーマに研究授業を全11回実施（初任者研究授業7回、校内パッケージ研修の研究授業1回、指導教諭研究授業3回）。その他、若手教員による模擬授業12回や公開授業10回について情報提供し、授業観察・研究協議により授業改善に取り組むことができた。（◎）</p> <p>エ・英語検定2級の合格者数は20名、準2級の合格者は34名であった。（○）</p> <p>・漢字検定2級の合格者数は4名、準2級の合格者は22名であった。（△）</p> <p>【今後の課題】</p> <p>・漢字検定、英語検定の意義を生徒に伝えるとともに、問題集の貸し出しの充実及び対策講習の実施を検討する。</p> <p>オ・進路HRや補習・講習の組織的・計画的な実施および大学・就職のための面接・小論文指導等の進路指導の取組み及び授業力向上方策により、左記の大学進学目標値を設定した。結果、平成30年3月26日現在、国公立大学合格者数は10名、関関同立大合格者数は158名であった。なお、今年はセンター入試に210名が受験。センター入試の受験者（平成26～29年度）の推移は次のとおり、162→197→205→210名。（△）</p>
1 教育力の向上	<p>(3) 3年間を見通したキャリア教育</p> <p>(4) グローバル人材の育成</p>	<p>イ・補習・講習（課業日の早朝や放課後、長期休業）を組織的・計画的に実施する。</p> <p>ウ・卒業生の実態把握を進め、同窓会と連携したキャリア教育を実施する。</p> <p>エ・1年次の秋の校外学習を進路学習と位置づけ、学習への意欲を喚起する場とする。</p> <p>ア・語学研修を引き続き実施するとともに、姉妹校である Bentleigh secondary college との交流を深め英語を用いたコミュニケーション力を育成する。</p>	<p>イ・進路指導部が中心となり補習・講習を組織的・計画的に実施する。</p> <p>・学力生活実態調査を各学年、年2回実施し、その分析会を行う。</p> <p>・全国レベルで生徒の学力を診断できる実力考査を各学年、年1回以上実施する。</p> <p>ウ・卒業生によるキャリア教育の機会を年1回以上持つ。</p> <p>エ・2大学以上と連携して大学見学を実施する。</p> <p>ア・姉妹校である Bentleigh secondary college との交流を深め英語を用いたコミュニケーション力を育成する。なお、交流する生徒数は20名をめざす。</p>	<p>イ・課業日の早朝・放課後や土日の講習に加え、各学期の成績結果をもとに長期休業中に指名補習や希望講習を実施。進路指導部が中心となり組織的・計画的に実施することができた。（◎）</p> <p>・学力生活実態調査を各学年、年2回実施することができた。それを受け、各学年が業者を交えて分析会を行った。（○）</p> <p>・全国レベルの実力考査を、3年は6/17、2年と1年は9/30に実施することができた。進路指導に役立っている。（○）</p> <p>ウ・同窓会と連携し、2/7のLHRで1・2年生全員に対して、卒業生によるキャリア教育講演会を実施する。（○）</p> <p>エ・11/17に1年次の進路校外学習（京都大学、関西大学、関西学院大学、同志社大学、龍谷大学）を実施。今年は次の3点を充実させた。1点目は大学側からの説明、2点目は学生によるキャンパスツアーの実施。3点目は学食の利用である。これを機に進路目標を持たせて意欲的に学習に取り組ませる。（◎）</p> <p>ア・今夏は本校生徒20名がメルボルンにある Bentleigh secondary college へ行き、授業を受けるとともにホームステイ先での交流を深め英語を用いたコミュニケーション力を育成することができた。（○）</p>

府立山田高等学校

2 豊かでたくましい人間性のほぐみ	(1) 部活動や特別活動を通じて、豊かでたくましい人間性の育成	ア・部活動への積極的な参加を促す。	ア・部活動加入率 90%を継続発展させる。(平成 28 年度 90.8%)	ア・新入生歓迎会でのクラブ紹介、仮入部期間の設定等により、入部率は 83.7%であった。全国大会にダンス部(部門別 3 位入賞)が、近畿大会に陸上部、バドミントン部が出場を果たした。文武両道をめざし、今後も入部率向上を図っていく。(△) (参考) 学校教育自己診断の(生徒)「部活動に積極的に取り組んでいる」83.9%→84.4%(0.5%向上)と高い数値であった。 【今後の課題】 ・新入生歓迎会でのクラブ紹介、仮入部期間の設定等により部活動への加入を促す。
	(2) 生徒会活動の活性化	ア・体育祭・文化祭の活性化を図る。	ア・生徒向け学校教育自己診断結果における体育祭・文化祭に対する肯定率 90%以上(平成 28 年度 91.5%)	ア・(生徒)「体育祭・文化祭は楽しく行えるよう工夫されている。」の肯定率は 88.4%であった。(△) 【今後の課題】 ・生徒会顧問の指導のもと、生徒会執行部と体育祭応援団、文化委員等が連携し、対話を尊重しながら次年度に向けてルールづくりを進めていく。
	(3) 生徒指導の強化	ア・遅刻指導を保護者等と連携・協力して継続強化する。 イ・服装・頭髪指導を継続強化する。	ア・遅刻総数前年度比 5%減。 イ・服装・頭髪違反者なし	ア・遅刻総数は 1969(平成 28 年度 2535)。昨年より 22.3%減であった。(◎) イ・生徒指導部と生徒会部が連携して服装指導を実施した。生徒の意見も取り入れ、服装指導方針を次のように決めた。5月と10月を合服期間(夏服・冬服どちらでも可とし、単色のセーター・カーディガン・ベスト着用可)とした。この服装指導方針を実行することができた。生徒主体で、生徒会執行部・風紀委員が定期的に正門・下足室前に立ち、夏服期間、合服期間、冬服期間を周知徹底。生徒たちの意見を取り入れ、生徒たち自ら規律を守る仕組みを整えた結果、服装違反者はいない状況となった。(◎)
	(4) 校内美化の推進	ウ・交通安全指導を継続強化する。全教職員による登校時立番を計画的に実施する。	ウ・交通マナー(規範意識)を高め、事故を未然防止する。 ・生徒向け学校教育自己診断結果における学校規律に関する質問での肯定率 90%以上(平成 28 年度 93.0%)	ウ・教職員が年間 7 回、早朝に 2 週間、10 か所に分かれてポイントに立ち、校外巡視を実施。生徒の交通マナー(規範意識)を高め、事故を未然に防止することができた。(◎) ・(生徒)「服装、頭髪など学校規律についての指導を守っている」の肯定率は 94.9%であった。(◎)
	(5) 人権尊重の教育の推進	ア・生徒の美化意識を高め、校内美化に努める。	ア・毎日の清掃活動を徹底させる。 ・特にトイレ、廊下、階段などの共用のエリアの美化に重点的に取り組む。 ・終業式後に一斉に大清掃(年 3 回)を行う。	ア・担当教員の意識を高め、毎日の清掃を徹底させた。(○) ・特にトイレ、廊下、階段などの共用のエリアの清掃を徹底させた。(○) ・終業式後に一斉に大清掃(年 3 回)を実施することができた。(○)
		ア・生徒が自他の権利を尊重するとともに、社会の一員としての自覚のもとに義務を果たすという姿勢の形成をめざす。	ア・人権研修会(生徒参加型)を年 1 度以上実施する。	ア・人権研修会を 11 月 1 日に 1・2 年生が体育館において、「互いのこころとからだを尊重しよう」(デートDVについて)と題して立命館大学非常勤講師・NPO 法人 SEAN 理事の伊田広行氏を招き実施した。3 年生は 9 月 27 日に「ブラックバイトに要注意」(労働者の人権問題)と題してブラックバイトやブラック企業などの社会現象を通して学び、働くことについて自ら考える機会とした。(○)

府立山田高等学校

<p>3 学校の組織力向上と開かれた学校づくり</p>	<p>(1) 組織力向上: 常に学校組織の見直しを図り、組織の活性化を推進する。</p> <p>(2) 保護者・地域との連携</p>	<p>ア・学年主任会議を設け、各学年の連携、引継ぎがスムーズに行くようにする。</p> <p>ア・小学生対象の科学入門講座、中学生対象の「楽しいスポーツ芸術講座」を継続発展させる。</p> <p>イ・地域との連携を深める。</p>	<p>ア・校外学習を、入学から卒業までの3年間を見通し系統的・計画的に実施する。</p> <p>・平成 29 年度においては、1 年(2 回)は春、仲間・クラスづくり、秋は大学見学等の進路学習、2 年春は自主性を重んじた修学旅行の事前学習。3 年春は最後の体育祭に向けたクラスの団結力を高める取組み。</p> <p>ア・小学生講座 50 名以上、中学生講座 400 名以上の参加をめざす。(平成 28 年度小学生講座 55 名、中学生講座 417 名)</p> <p>イ・地域協議会等へ 10 回以上参加する。</p> <p>ア・学校説明会を年間 20 回以上実施する。</p>	<p>ア・校外学習を卒業までに 5 回(1 年は 2 回、2・3 年は各 1 回)を計画的に実施。1 年春は仲間づくり、秋は大学見学等の進路学習。2 年春は修学旅行の事前学習。3 年春は進路に向けて学年・クラスの団結づくりと 3 年間を見通した目標を決め、それに沿って各学年が計画を実施。特に 11/17 に 1 年次の進路校外学習(京都大学、大阪市立大学、関西大学、関西学院大学、同志社大学、佛教大学)を実施することができた。今年はこの 3 点を充実させた。1 点目は大学側からの説明、2 点目は学生によるキャンパスツアーの実施。3 点目は学食の利用である。これを機に進路目標を持たせて意欲的に学習に取り組ませる。(◎)</p> <p>ア・地域の小学生対象の科学入門講座として、理科の実験教室を 7/26 に実施。物理「摩擦力への挑戦、作って遊ぼうホバークラフト」。化学「化学反応って! 作って遊んで楽しもう」。生物「川の生き物、微生物から魚まで」の 3 コースに分かれて 73 名が参加した。(平成 27 年度 27 名→平成 28 年度 55 名→平成 29 年度 73 名)。また、9 月に中学生対象の「楽しいスポーツ芸術講座」(サッカー、硬式野球、バスケットボール、ソフトボール等)を土日ごとに実施。今年吹奏楽部を除き 305 名が参加した。(平成 27 年度 170 名→平成 28 年度 417 名→平成 29 年度は吹奏楽部を除き 305 名)。(△)</p> <p>イ・校長、教頭、PTA が山田東中学校区・地域教育協議会等へ 12 回参加した。地域フェスティバル(10/28)に吹奏楽部(演奏)、ダンス部(ダンス披露)、PTA が参画(おにぎりとお山田高校せんべいの販売)した。地区公民館・地区文化祭への美術・書道の出展。地元小中学校・福祉施設への吹奏楽部公演。その他、地域清掃、吹田支援学校との交流(本校文化祭へ吹田支援学校生を招待し、本校生徒が案内)等を行った。さらに、地域の幼小中の入学(園)式、学校行事(運動会)等に参加し連携を深めた。(◎)</p> <p>ア・教育活動の情報発信として、総務部を中心に学校説明会(府立高校合同説明会、本校説明会、塾説明会、中学校説明会等)を全 28 回実施することができた。特に、本校説明会を 10/28 と 11/11 の両土曜日の午前中に授業見学と体育館での学校説明会(人数制限なし)、昼休みは食堂体験、午後からはクラブ見学を実施することができた。なお、この 2 日間の参加人数は 1589 名であった。(◎)</p>
	<p>(3) 教育活動の情報発信</p>	<p>ア・教育活動の情報発信について、総務部を中心に全校的に取り組む。</p>		